

令和4年12月19日

富津シティロータリークラブ
会長 立石 泰之 様

富津市教育委員会
教育長 岡根 茂

「東日本大震災語り部プロジェクト～富津市内小中学生に
大震災の経験と教訓を伝える～」の御礼

師走の候、貴職におかれましては益々ご清栄のことと、お喜び申し上げます。日頃から、本市の教育行政にご理解ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、この度は、「東日本大震災語り部プロジェクト～富津市内小中学生に大震災の経験と教訓を伝える～」を開催してくださり、誠にありがとうございました。震災の概要と語り部様の体験から、改めて津波の恐ろしさ、自然災害に対しての事前の備えの大切さを痛感しました。児童・生徒は、自分や自分たちの命を守ることの大切さを深く考える時間となり、充実した防災教育となりました。さらに、命の大切さを学ぶ道徳教育にもつながる深い時間となりました。これもひとえに、富津シティロータリークラブ様のご厚意により、通常の授業だけでは学ぶことのできない貴重な学習の機会を与えていただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

つきましては、児童・生徒の感想の一部を同封させていただきましたので、ご覧いただけますと幸いです。感想からも、今回の「震災学習プログラム」が、児童・生徒の心に響く内容であったかが伺えます。

末筆になりますが、貴会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。書中にて略儀ながら、御礼のご挨拶とさせていただきます。

小学生 感想

ぼくは、震災プログラムを受けて思ったことは、まず1つ目は災害に備えようと思いました。避難訓練や避難ルートなどをしっかりやろうと思いました。2つ目は、命をもっと大切にしようと思いました。自然災害に人間は勝てないから、自分でできる対策をしようと思いました。この震災プログラムを受け、災害に対して、さらに危機感を持ちました。

東日本大震災の時、私はまだ1才にもなっていなかったときでした。だから、後から家族に「こんな感じの地震だったよ」などは聞いてました。しかし、実際に体験した人のお話や動画を見て改めて自然の怖さが分かりました。あと、私は泳げないので、すぐしずむなと思いました。津波で建物がすべて壊れてしまうことや15km離れた場所に来ることなど知らなかったので、このプログラム学習を通して、色々な事が分かりとても勉強になりました。地震が起きたときの避難のことを今夜、家族と話せたらなと思います。

津波火災で起きた愛莉ちゃんの出来事で、燃えて赤ちゃんより小さくなってしまったことにとっても驚きました。私は富津に住んでいると同じようなことが起きてしまったりすることもあるので、鳥肌が全身に広がりました。もちろん、対策はそれなりにしているのですが、いざ考えてみると本当に怖いなと感じます。今回、プログラムでは、心の備えも必要だと言っていましたが、私はその備えが足りていないと確認できました。今後は、災害と心の備えをしていって、本当に地震が起きたときは、冷静に避難をしたいなと思いました。

東日本大震災への理解を深められるとてもよい機会になりました。地震についてある程度の知識はあったのですが、今日、改めて動画や説明を聞いて地震や津波の恐ろしさを再認識できました。私は東日本大震災の時、母のお腹の中に居たのですが、生まれる際に病院の中に電気が通っておらず、ろうそくの光をたよりに産まれたことなど、大変だったことを母に聞いていました。それでも、海側の地域の人など、もっと大変だった人達がたくさんいることにとってもおどろきました。そういう方のため、私もできることは自分から進んで行えるよう、頑張りたいです。

東日本大震災は、私がまだ生まれて1ヶ月もしないときに起こりました。お母さんから聞くと、警報がたくさん鳴っていて、すごく恐怖を感じたと言っていました。その時のお母さんは、私を抱いて避難してくれたそうです。今、生きていて、とてもうれしく思います。今日知ったことは、2011年の頃、たくさんの人が亡くなったり、ケガをしてしまったりしたことです。あと、幼稚園の話は、とても切ないけど、親がどれほど、私たち（子

ども)を大切にしてくれていることが改めてわかりました。2011年の東日本大震災の頃と、今をくらべてみると、今がすごく平和だということがわかりました。私は空手もできて、学校も通えて、いつもあたり前のことが2011年の子どもたちにとって、とてもうらやましいことだということを思いました。だからこそ今、生きていることを大切に、これからはがんばりたいと思います。あと、対策はとても大事だなんて思いました！

今日色々な人の話を聞いて、東日本大震災は本当に怖いものだということを知れました。いつ起こるかはわからないけど、防災グッズを準備したり、日頃から心の備えをしたりしておこうと思います。自分の子どもが災害を受けて命を落としてしまったというお話を聞いて、ぼくもしつかりと避難場所を知り、もしもの時に避難できるようにしたいです。東日本大震災での津波がきたら、ぼくのお家にも津波がくるなと思いました。震災の怖さを忘れず、日頃から備えておきたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。

ぼくは0才の時に東日本大震災があったと親に言われました。とても昔のことなので、いつ、どこで、どのようにおきたのかは、何1つ覚えていませんでした。けれど、今日の授業をやって自分が小さい頃にどのような被害が出て、どれだけの人が苦しんだのかを知ることができました。ぼくの住んでいた所は、市原のガスが爆発して、とても大変だったと聞きましたが、今日、紙芝居でやっていた話は、地震が起きて津波も来て、火災になったと聞いて、自分が体験したことよりも、もっと大変なことがおきていたことを知りました。紙芝居を見て、「あたりまえがあたりまえじゃなくなる」というのを聞いて、明日、今、大きな地震がくるかもしれないので、1日1日を大切にしていこうと強く思いました。今日は、とても大事なことを教えてくださり、ほんとうにありがとうございました。このことを一生忘れずに、生活していきます。

紙芝居で言っていた「いのちを大切」にしようから、1日1日を大切に楽しく学校生活を送っていきたいと思いました。そして、災害はいつどこでおこるかわかりません。そこから、自分のできることは、1. 対策をする。2. 家族とどこへ避難をする。この2つが大切だと思いました。震災への対策はすぐできるので、家に帰ったら確認して、いつ震災が起こっても大丈夫なように、どこにどのようにして避難をするのか家族を確認したいです。そして、この授業から「いのちの大切さ」を学ぶことができました。紙芝居を見て「いってきます」「ただいま」が日常なのに「いってきます」を言って「ただいま」がいつになっても聞けないなんて悲しいなと思いました。なので、私は日頃から質問で言っていた大きい物は倒れないようにしたり、心の準備をしたりしておくなど、質問のことをいかして生活していきたいです。今日はありがとうございました。「～大震災の経験と教訓を伝える～についてたくさんのことを勉強することができました。これからは、今日学んだ

ことをいかして生きていきたいです。

私はいつものあたりまえがあたりまえじゃなくなってしまうということがわかって、これからは毎日ききかんをもって生活したいと思いました。愛莉さんは、自分も不安だったと思うけど、自分より友だちの心の支えになっていて、とてもすごくて、ゆうかんだなと思いました。1つの命だっとうしなったら、かなしむ人がいるから愛莉さんをみならって自分だけたすかればいいと思わないで他の人のことを考えていきたいです。

災害で大切な人を失うことがどれだけ悲しいのかがわかりました。大地震が、おきた時、どうしたらよいのかがわかりました。大変なことがあったのに、ていねいに説明をしてくださったおかげで、これからも、今ある時間を大切に生き、命を大切に思っていきたいです。これから災害があっても、精一杯生きていきたいです。

自分たちはニュースでしか知れない東日本大震災の話を聞いてぼくは亡くなってしまった人の気持ちや、メッセージはその人の知っている人の心の中にいつまでも生きているのかも知れないと感じました。二度とその人の声や姿が見ることが、聞くことができなくても気持ちはこれからもいろいろな人に伝わっていくのではないかなと思います。実際に今回を通して、愛莉さんの気持ちはぼくたちに伝わったのではないかと思います。これからも東日本大震災を知らない人たちに語り続けてください。今できることを今やろうと、思わせてくれてありがとうございました。

中学生 感想

東日本大震災について聞いて、今日始めて知ったことも多くあり、驚きました。東日本大震災は、多分誰もが知っていると思うけど、やっぱり年々この震災について関心が無くなってきていると思うし、過ぎたことだと思っている人が増えていると思う。そんな中で、こういうプロジェクトをやるということで、若い人達や学生達に少しでも関心を持たせる事ができる。いつの時代になっても、この災害はたくさんの犠牲者が出ていたんだよとか、こういうことで苦しんだんだよ、みたいな事を知っていれば、次、こういう事が起きたら、こうすれば良いとかがわかるから、今日の東日本大震災語り部プロジェクトはすごく良い取り組みだなと思った。

今回の東日本大震災語り部プロジェクトさんの話を聞いてとても参考になりました。実際に、経験した話を聞いて、もし、自分があの場にいたらメンタルなどが保てていないと感じました。大震災の時に、〇〇をしたほうが良かったことや、その時に行動すべきことを聞けてとても良かったです。前は、地震が来たらすぐ走って逃げるのが大事だと思っていましたが、それに加えて落ち着いて避難したり、自分の今の状況把握などの様々なことを考えて避難したりすることが今日のプロジェクトでわかりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

今回教えてもらった事と、今まで思っていた事と全く違い、実際に地震が起きたらパニックに絶対になってしまう。けれど、落ち着いて逃げたり、災害が起きる前に安全な避難する道を覚えるなど、家族の人たちに教えたり、経験した事がなく、実際に地震が起きたら、怖くなったり、焦ったり、パニックになってしまうので、落ち着いて行動して被害にあわないようにする。今回で今まで思っていた事とは違い、今までの意見などだけで実際に地震が起きたらパニックになってしまったと思うので、今回の時間があり、とても良かったです。

今日、私はこんなに詳しく、被災者の方の話を聞いたのは初めてでした。被災者の方の話は、聞いていてすごくつらかったです。なので、語り部さんは、話していてもすごくつらいと思うのに、今回教えていただけて、すごくありがたいです。自分が思っていた避難方法、状況がまるで違いました。まず、地震の揺れ方、音の話がすごくびっくりしました。海にひきずられるような揺れ、大きな音は、私はまだ体験したことはないです。そんなことが起きていたのかと、とても驚きました。次に、避難所のことですが、テレビなどで、簡単に入ることができないのは知っていました。ですが、実際、小学生・中学生が夜中に山の中を歩くななんて、考えてみてもいなかったです。私には、家族、そして友達、大切な

ものがあふれています。もちろん、家族の中に猫もいます。避難ができるのか、そして、みんな全員が無事に生きることができるのかと、すごく話を聞いて、怖くなり、起きてほしくないと思いました。ですが、もし、震災が起きたとき、自分の命、そして大切な人の命を守るためにも、保護者のお母さん、お父さん、家族に伝え、自分の今から備えていくことができるようにします。

まず、最初に観た動画で思ったことは、30秒ほどの短い動画なのに、どんどん水位が上がっていき、車が簡単に流されてしまっていることに驚きました。また、津波は、大きな波がきて終わりではないという言葉がとても印象深く残りました。いつもの地震とは違って、音が大きく、長く続くような地震が発生した場合には、すぐに避難し、自分の命を守れるようにしたいです。今回の授業を通して、学んだことがたくさんありました。自分の町はどのようになっているのか、どこに避難できて、どこが安全なのかを歩いて確認し、たくさんの人たちとの交流も忘れないようにしたいです。自分はまだ中学生なので、できることは限られているかもしれないけど家族の人としっかり話し合い、今回、学んだことを活かしていけるようにしたいです。大震災が発生し、たくさんの人が亡くなってしまったことを忘れず、災害意識を深めていきたいです。

ニュースで「震災から10年」など、よく目にするが詳しく知りませんでした。石巻市や釜石市では、日頃の避難訓練を明確な場所などを作っていたから実際に起きた時、すぐに避難することができたと感じました。特に菊地さんのお話しであった、「山なりは津波がすぐ来る」「長く揺れたらすぐ逃げる」など、地域の人が長い間「語り継いできたもの」も生かされていて、今、行われている「語り部」の活動は、東日本大震災の記憶を風化させずに、かけがえのない命を失わないために、大切なものだと思います。先生や地域の人、学校、親との連携がたくさんの命を救うカギだと思います。たくさんの不安が押し寄せる中で、パニックになってしまわないように、イメージを持って避難場所や家族と話しあうなど、自分にできる「備え」をやりたいと思います。

今まで地震や津波の映像を見ても、大変そうだな、うわーぐらいの気持ちで、自分と遠く離れた国の出来事のように思っていました。でも実際に、語り部さんの話を聞いてその場面をイメージしたらとても怖くなりました。私には、小学生の妹がいるのですが、私だったら逃げずに小学校に迎えに行ってしまうかもしれないと思いました。また、家族に伝えることの大事さを学びました。帰ったら家族にも聞いてみたいです。津波の恐ろしさ、避難所での生活を想像すると、本当に災害はおこってほしくないです。なので、今までの「なんとなく」だった防災を見直して、自分と家族を守れるように工夫していきたいです。